

平成31年度研修計画

H31. 4. 1

1 学校教育目標

「自他を大切にし、未来を生き抜く生徒の育成」

～知・徳・体の調和のとれた、心身共に逞しい生徒～

【目指す学校の姿】

- (1) 生徒にとって 誰もが安心して精一杯学び合える学校
 - (2) 保護者にとって 信頼して子どもを任せられる学校
 - (3) 教職員にとって 生徒を誇りにできる学校
- 〈具体的な生徒像〉 「まじめに、楽しく、心合わせて」

〈生徒像〉

- (1) 思いやりと感謝の気持ちを大切にする生徒
- (2) 自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組む生徒
- (3) 自分で考え、全力発揮で行動する生徒
- (4) 挑戦する心を忘れずに、最後までやり抜く生徒

2 校内研修（研究）テーマ

生徒の頭脳や心がアクティブに働く授業の創造
～ 聴き、考え、論じ、理解し合える生徒を育成するための授業改革 ～

3 研修（研究）テーマ設定の理由

(1) 次期学習指導要領の観点から

平成33年度から全面実施予定の次期学習指導要領では、情報化やグローバル化が進み、ますます予測困難な時代に生きる子供達一人一人を、未来の造り手に育てることが求められている。

「主体的・対話的で深い学び対話的で深い学び」の必要性が叫ばれ、学校の授業においては、「教師が何を教えるか」という観点からの授業ではなく、「生徒が学ぶことを通して何ができるようになるか」を中心に据えた授業への改革が、最大の課題となっている。

次期学習指導要領に盛り込まれている「主体的・対話的で深い学び」は、一般的には、ディスカッションやディベートなど、学習者が課題に対して自ら主体的に意見交換などをしながら取り組むことで、より深い学びへと進んでいくこと、のように言われている。しかし、「主体的・対話的で深い学び」で肝心なところは、学習中に学習者の頭脳や心が課題に対して活発に働くことであって、単に学習形態の模倣に終わってはならない。そこには、教師によって綿密に計画された適切な課題が必須となる。まだ十分な知識を持たない生徒達には、基礎基本の定着を図ることはとても重要である。そのため、毎回の授業で「主体的・対話的で深い学び」を求めることは、難しいが、章や単元の終わりには、聴き、考え、論じ、理解し合える生徒の育成を目指した授業を展開するべきであると考えます。

このテーマでの研究は、平成29年度から始まり、昨年度は道徳にも力を入れながら、「主体的・対話的で深い学び」が行われる授業の研究を行ってきた。そして本年度と来年度の2年間、本校は流山市の研究指定を受けることとなった（本年度は研究、来年度が公開）。起承転結ではないが、

29年度に始めたことが（起）、昨年度に引き継がれ発展し（承）、来年度で一つの形を創り上げる（結）ことを考えたとき、今年度は、昨年度までの我々の実践を、新たな視点から見直し、一度壊すくらいの気持ちで取り組む（転）必要があるのではないか・・・そのような気持ちを込めて副題を「聴き、考え、論じ、理解し合える生徒を育成するための授業改革」としてみた。

（2）学校教育目標の具現化に関して

「You Tuber」や「e-sports 選手」が将来の夢だ、という子供がいる。昔ながらの「〇〇屋さんになりたい」といった「個人店舗経営」のような夢は、「個人店舗」が「大規模資本」に飲み込まれていく現在、もはや成り立たない夢なのかもしれない。そんな中、「自他を大切にし、未来を生き抜く生徒の育成」をしていくためには、どのような教育活動が求められるのだろうか。

「未来」は今、あまりにも予想がつきづらくなってきているが、そんな「未来」を生き抜くため、これからの日本を担う子どもたちに求められる「実力」とは、どんなものなのだろうか。

- ・「ゼロ」からでも、何かを生み出せる力。
- ・そのために、他者との共存共栄を図れる力。
- ・グローバルかつユニバーサルな社会に対応できる力。
- ・多少の困難には挫けない力。

などなど・・・、いろいろなことが考えられる。しかし、多くの子供達にとって、将来、他者と共生を図りながら自己実現することができるようになることが求められていることは、おそらく間違いなであろう。このような力をつけるためには、授業の中で聴き、考え、論じ、理解し合う主体的・対話的で深い学びが必要になると思われる。

（3）全国学力状況調査の結果ら課題

- ① 計画的な家庭学習の定着率がやや低めである。
- ② 記述式の問題に対する正答率が、やや低い。
- ③ 「資料の活用」は、やや苦手としている。

（4）研究の仮説

結果的に「一つの正解」を導き出せる能力よりも、それに至るまでの「いろいろな考え方」や「積極的に問題解決に取り組む姿勢」を評価することを念頭においた授業を組み立てていくことを通して、生徒は互いに聴きあい、考え、論じあい、理解しあうようになり、その結果、生徒の頭脳や心がアクティブに働く授業になるのではないかと。

4 校内研究授業の進め方について

（1）校内研究会について ⇒ 各教科で、年間で1～2回、講師を招聘して行う。

- ・時期は未定です。
- ・「中堅教諭等資質向上研修」（斉藤T、溝井T）、は、この機会に合わせて行ってください。（斉藤T、溝井T）（1学期中が良いのでは・・・）
- ・32年度の公開のことも、各教科部会で考慮してほしいと思います。

（2）〇〇研修に関わる先生方について

- ・初任者研修（吉田美枝T）
- ・フォローアップ研修1（後藤T・武田T）
- ・フォローアップ研修2（川崎T・松元T・本永T）
- ・5年経験者研修（三原T）
- ・ステップアップ研修（五十嵐T）

授業公開（講師招聘する、しないにかかわらず）が必要な場合、知らせてください。調整したいと思います。

5 日々の研修について

- ① 年間指導計画に「単元ごとの CAN-DO」を記載する。
年間指導計画の見直しをお願いいたします。英語科では CAN-DO リスト（各学年末までに何をできるようにするか、を明示したもの）をもとにして、各単元の CAN-DO を年間指導計画に明示しています。参考にしていただければ幸いです。大変な作業かと思いますが、各単元で「〇〇することができるようになる。」という表現で具体的に生徒の変容が明示できるように、各教科部会で検討を重ねてほしいと思います。
(過去の年間指導計画は share → 10研修 → 212 年間指導計画から参考してみてください。)
- ② 単元の終末の授業で「何をできるようにするか」を意識し、日々の授業を組み立てていく。
平成33年度には、当たり前になっているはずのことですので、教科部会、個人で積み重ねていってほしいと思います。
- ③ 生活記録ノートに、「今日の家庭学習の予定」を記入させ、点検する。
全国学力状況調査で、家庭学習の定着率が低いことが明らかになっています。生活記録に家での学習予定を記入させることで、意識付けが図れるのではないのでしょうか。ひいては、試験前の学習計画表の提出が、必要なくなるかもしれません。
- ④ 生徒にとっても教師にとっても、「適切、適量、継続可能な家庭学習課題」
やらない生徒はできるようになりません。やらせなければやらない生徒もいます。でも、そのようなことが原因の登校しぶりもあります。「宿題をやればできるようになる、成績も上がる。やらなければできなくなる、1になることもある。」は、自己責任なのか……。提出、点検、評価が一体となった「宿題」である必要はないのかもしれない。「これを読んでおくと、次の授業がわかりやすくなるよ」と伝えるだけの「家庭学習課題」も、アリなのかもしれません。
- ⑤ 「関心・意欲・態度」の評価の仕方について
ワークなどを提出させ、点検して、「関心・意欲・態度」の成績に加味する、ということに疑問を感じます。「答えを写しただけのワーク」「ほかの人がやったかもしれない提出物」をその生徒の「関心・意欲・態度」として通知表に反映させているのかもしれない。「研修テーマ」を実現するためにも、「先生は、君たちの〇〇を△△のように評価します」と生徒に知らせることは、「関心・意欲・態度」以外の観点でも大切かと思えます。教科部会での検討をお願いいたします。
- ⑥ 毎時間、「授業の振り返り」を丁寧に行う。
授業の終わりに簡潔な板書を残したり、「今日の授業では、～について勉強しました。要点としては○や△や☆がありましたね。」とか「今日の内容がどれくらいわかったか、最後にこんな問題をやってみましょう。」など、「振り返り」の方法はさまざまあるかと思えます。日々の授業での積み重ねをお願いいたします。
- ⑦ 今年度も、1日30秒、英語の学習にお付き合いください。
小学校では、全ての先生が、生徒に英語を教えるという時代です。中学校では、英語科がその専門性を生かして英語の指導にあたりますが、どうか先生方、小学校からの流れを中学校で切らないようにするためにも、積極的な英語の使用をお願いいたします。English Day は継続させていただきたいと思えます。また、その質的な向上を図るためにも、各学年の朝の打ち合わせのときに30秒だけ時間をいただき、各学年の英語科を中心に英語学習を行っていただきたいと思えます。第4学年も、同様をお願いいたします。テキストは配布いたします。

6 年間計画

| | | |
|-----|---|--|
| 4月 | 運営委員会 職員会議 教科部会 学年会 第1回 English Day | 平成31年度研修の方向性の検討 平成31年度研修計画案 教科の努力目標、教科の年間指導計画作成（確認） 教科の進度表の確認、評価・評定について 総合的な学習の時間の年間指導計画作成 学年PC担当者の決定 |
| 5月 | 第2回 English Day 教科部会 | 校内研究会の指導案についての検討 |
| 6月 | 第1回校内研究会 第3回 English Day | |
| 7月 | 第4回 English Day 研究推進委員会(7/) 教科部会 小中合同研修会(7/) | 評価・評定確認及び進捗確認、1学期の反省 1学期の反省と2学期以降の研修内容の検討 年間指導計画の検討 小学校の先生方と合同研修 |
| 8月 | 自主研修（各自） | |
| 9月 | 教科部会(9/) 第5回 English Day | 2学期の努力点の確認。 |
| 10月 | 第6回 English Day 第2回校内研究会 | |
| 11月 | 第7回 English Day | |
| 12月 | 第8回 English Day 研究推進委員会(12/) 教科部会（12/ ） | 評価・評定確認及び進捗確認、2学期の反省 2学期の反省と3学期以降の研修内容の検討 年間指導計画検討、指導案検討 |
| 1月 | 教科部会(1/) 第9回 English Day 第3回校内研究会 | 3学期の努力点の確認 |
| 2月 | 教科・領域部会 第10回 English Day | 評価・評定確認及び進捗確認、研修のまとめ 年間計画の見直し・平成32年度年間計画作成 |
| 3月 | 第11回 English Day 研究推進委員会(3/) | 平成32年度の研修の方向性の提示 |

※校内研究会については、年間の行事や学年の行事など、先の見通しを持って、計画を立てて頂き、早めの準備をお願い致します。

7 指導案について

第○学年○組 △△科学習指導案

指導者 教諭 ○○ ○○
場 所 ○年○組教室

<研究主題>
生徒の頭脳や心がアクティブに働く授業の創造
～聴き、考え、論じ、理解し合える生徒を育成するための授業改革～

1 単元名 (題材名)

基本 MS 明朝フォント 11 で、ここだけフォント 14 で。
ここは均等割り付けを。(教諭 を忘れる方が多いです)
左のマージンは 25 ミリで、右は 20 ミリで。天地は 25 ミリで。

・これ以降は

2 単元について

- (1) 単元観
- (2) 生徒の実態 ここで合理的配慮について
- (3) 指導観

3 単元の目標

4 指導計画 (○時間扱い)

5 本時の指導

- (1) 目標
- (2) 展開 (指導・支援 (○) と評価 (◇))
- (3) 板書計画

を基本としてお願いいたします。数字、() の数字もこれにならっていただければと思います。

・各ページのフッターに 英語 2-5 (1) のようにページを打ってください。

※ 東葛教育事務所からの指導案参考例に準じて、指導案を作成してください。
(share → 10 研修 → 215 指導案形式)